

# 対象

## 宮城県大崎市における質問紙調査(2006年)

65歳以上の全市民  
31,694名

- ・質問紙を配布できない者 457名
- ・質問紙未回収 7,815名
- ・性別不明・無効回答 331名

有効回答  
23,091名 (72.9%)

- ・要介護認定の情報提供に非同意 6,352名
- ・基本チェックリストの24項目以上が欠損 67名
- ・ベースライン時に要介護認定を受けていた者 1,809名

追跡対象  
14,863名

1年間の追跡率は99.8%

- ・要介護認定を受ける前に転出 29名
- 死亡 212名

解析対象  
14,622名

# 統計解析

- アウトカム： 1年間の新規要介護認定(要支援1以上)の発生
- 基本チェックリスト: 欠損は「該当あり」とした
- 解析方法:
  - 多重ロジスティック回帰分析(性・年齢補正)により以下の要介護認定発生のオッズ比を推定

説明変数

(該当なしが基準:  
reference)

- ・ 各項目(25項目)
- ・ 各基準(7基準)
- ・ 特定高齢者候補者の選定基準(総合的基準)

目的変数



1年間の新規要介護認定の発生

# ベースラインの基本特性

---

男性 6,489名 (44.4%)

女性 8,133名 (55.6%)

平均年齢(標準偏差) 74.0(6.0)歳

特定高齢者候補者の該当者数 5,554名 (38.0%)

---

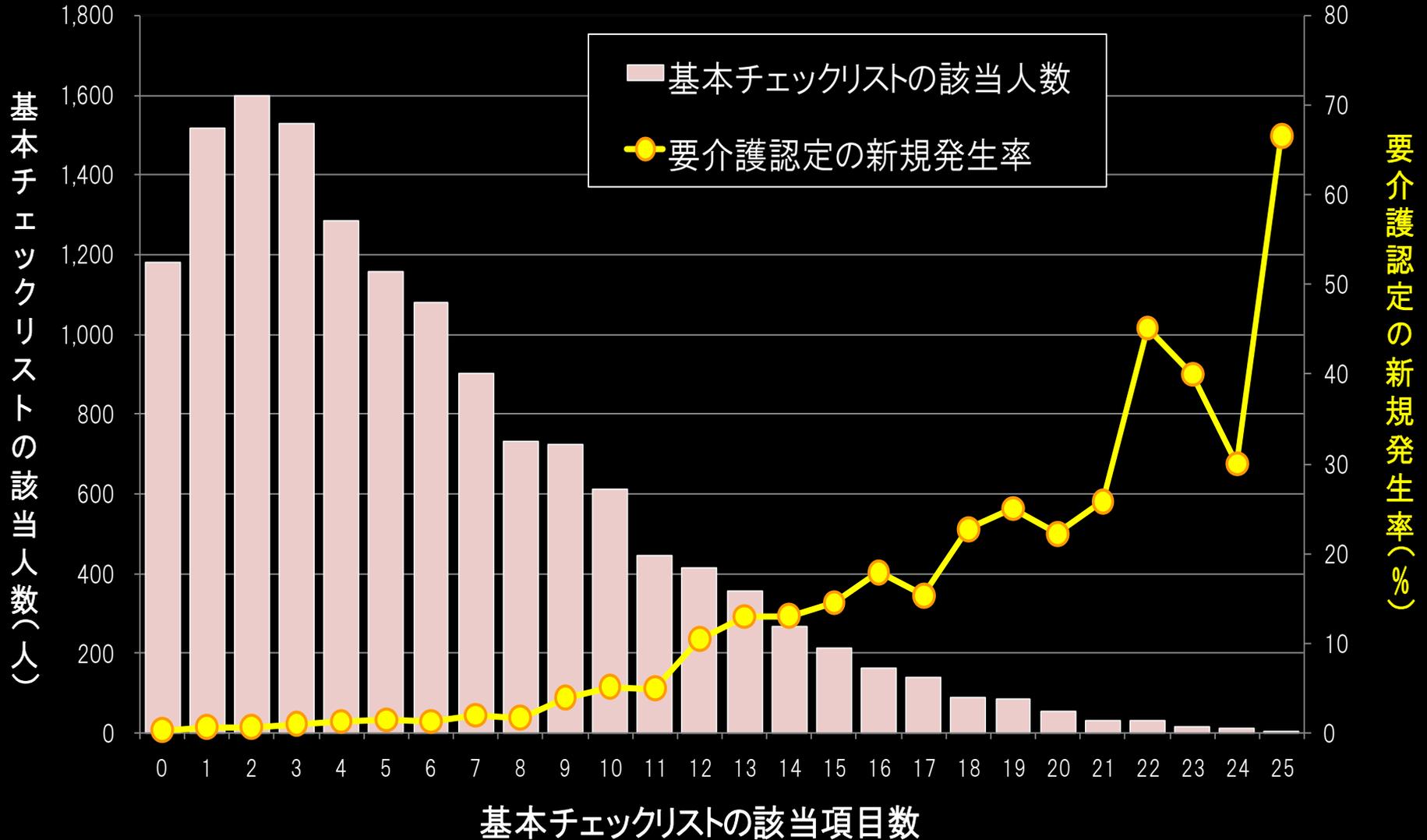
## 追跡結果(1年間)

---

新規要介護認定の発生者数 483名 (3.3%)

---

# 基本チェックリストの該当項目数と 要介護認定発生率



# 基本チェックリストの各項目における 要介護認定発生のおッズ比

性・年齢補正 オッズ比

1 2 3 4 5 6

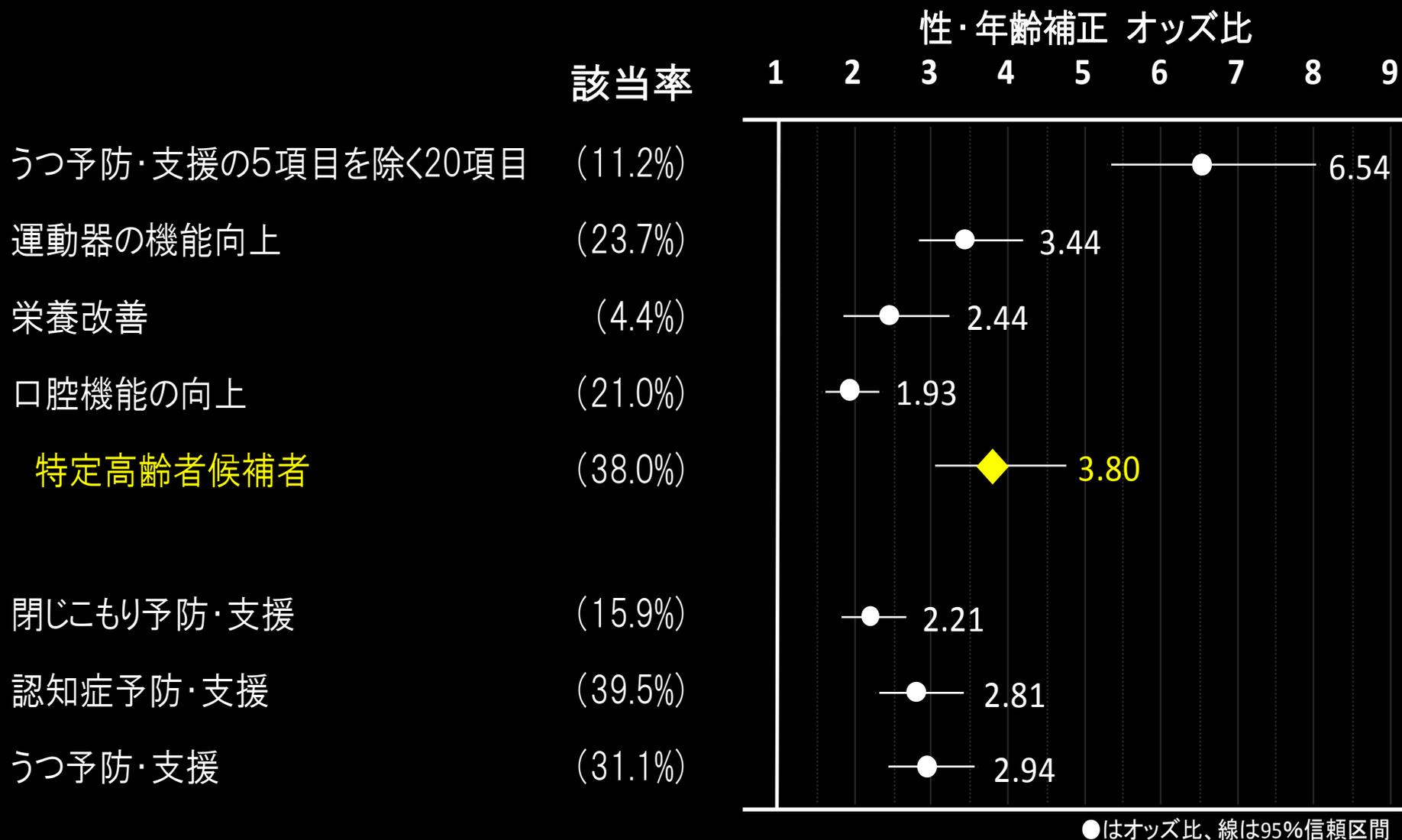
- IADL
- 1) バスや電車で1人で外出していますか
  - 2) 日用品の買物をしていますか
  - 3) 預貯金の出し入れをしていますか
  - 4) 友人の家を訪ねていますか
  - 5) 家族や友人の相談にのっていますか
- 運動
- 6) 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか
  - 7) 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか
  - 8) 15分位続けて歩いていますか
  - 9) この1年間に転んだことがありますか
  - 10) 転倒に対する不安は大きいですか
- 栄養
- 11) 6ヵ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか
  - 12) BMI (kg/m<sup>2</sup>) < 18.5
- 口腔
- 13) 半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか
  - 14) お茶や汁物等でむせることがありますか
  - 15) 口の渇きが気になりますか
- 閉じこもり
- 16) 週に1回以上は外出していますか
  - 17) 昨年と比べて外出の回数が減っていますか
- 認知症
- 18) 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか
  - 19) 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか
  - 20) 今日が何月何日かわからない時がありますか
- うつ
- 21) (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない
  - 22) (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった
  - 23) (ここ2週間) 以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる
  - 24) (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない
  - 25) (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする

例: 該当すると4.67倍リスク高

4.67

1.45

# 基本チェックリストの各基準における 要介護認定発生のおッズ比



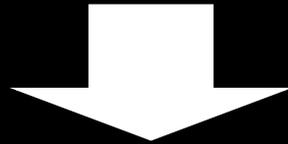
# 特定高齢者候補者の選定基準における 感度・特異度・陽性反応適中度

	要介護認定発生			
	なし		あり	
特定高齢者候補者	人数	(%)	人数	(%)
該当なし	8,962	(63.4)	106	(22.0)
該当あり	5,177	(36.6)	377	(78.1)
合計	14,139	(100.0)	483	(100.0)

感度 78.1%  
特異度 63.4%  
陽性反応適中度 6.8%

# 結論

- 基本チェックリスト
- 各項目(25項目)
  - 各基準(7基準)
  - 特定高齢者候補者の選定基準



その後1年間の新規要介護認定の発生リスクを予測していた  
基本チェックリストが要介護認定になるおそれの高い者の  
スクリーニングに有用

# 予防のパラドックス

予防が成功した場合、何も起こらない  
だから予防の効果は実感しがたい  
そこが医療や福祉との大きな違い

予防の効果を科学的に検証することの重要性